

お内仏の お華東 の作り方

供筈（くげ）、お供えのための
の仏具。今回の供筈は8角
形の対面が85ミリを使用）
に餅のお華東（けそく）を
固定するための芯を作成し
ます。一度作れば何度でも
利用できますし、ホームセ
ンターで販売されている材
料で作成できます。材料費
は500円程度です。

準備するもの

6mm厚
桐材



2cmの
檜材



10Φ
丸材



サンド
ペーパー
(紙やすり)



木工用
ボンド



串

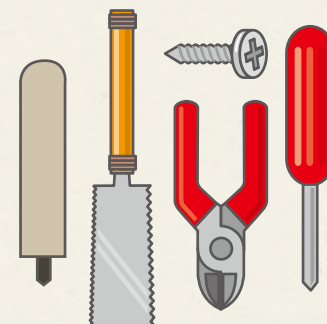


小さいおもち
160g×3袋



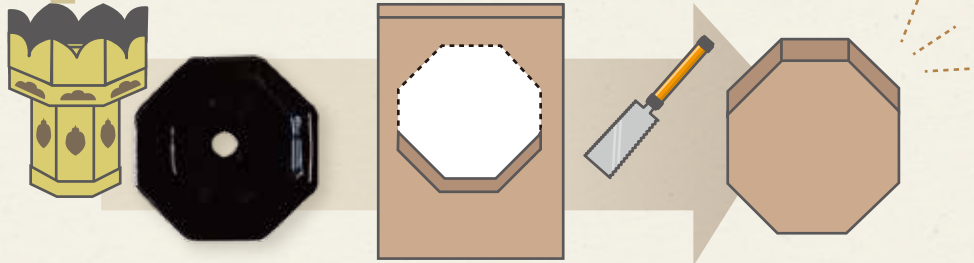
工具

キリ・鋸・ビス
ペンチ・ドライバー



1

桐集成材の厚さ6ミリの板から
8角形を原型の土台をもとに切り出します。



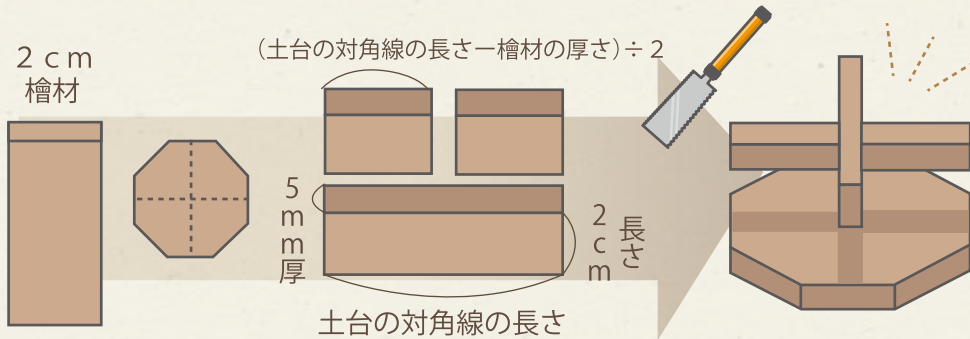
供筒から台の
型紙を取ります。

6mm厚の桐材に型紙
で型を取り鋸で切り出す

土台の台の切り出しが
できました。

2

次に下駄になる部位を2cmの檜材からとります。
今回は6mmの桐材も2cmの檜材も厚さは加工せず使用
しましたが供華の大きさで変わるとお思いますのでご注意く
ださい。



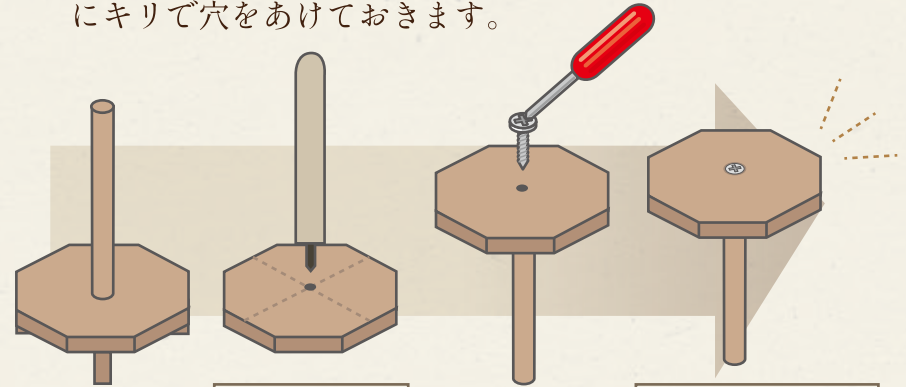
土台の下駄(台座
の下につける足)
の切り出しをおこ
ないます。

下駄は土台の1つ目は対角線の
長さでとり、高さは供華の高さ
に合わせる。2つ目は1つ目と
噛み合わせるため2つに分ける。

土台の下駄の
切り出しが
できました。

3

最後に10Φの丸材を高さに合わせて切ります。今回
は10cmにしました。最初に桐集成材で作った8角
形の板の中心に芯になる丸材をビスで止めます。材
料が小さいので、割れないように丸材にも通るよう
にキリで穴をあけておきます。



丸材を高さ確認
して切ります。

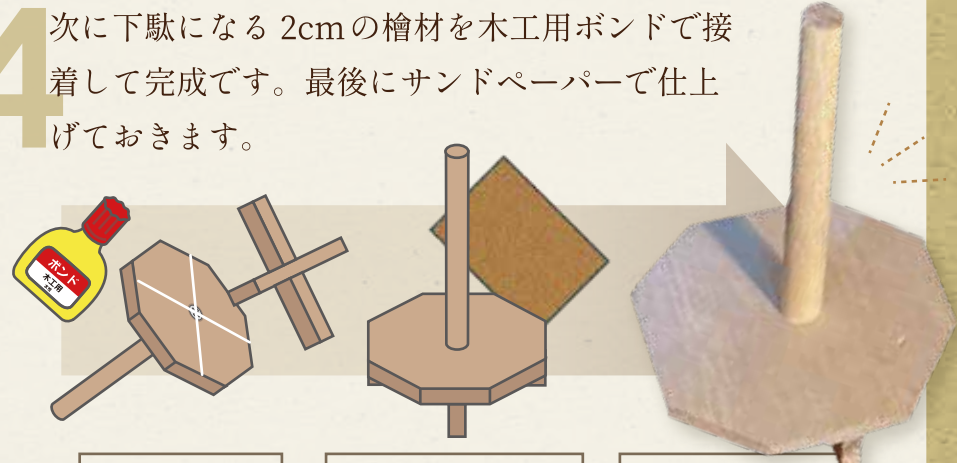
台座の中心を
取り、桐で穴を
開けます。

桐で開けた穴に
ビスを打ちます。

丸材までビスが
貫通しているか
確認して完成です。

4

次に下駄になる2cmの檜材を木工用ボンドで接
着して完成です。最後にサンドペーパーで仕上
げておきます。



下駄をボンドで
接着します。

ボンドが乾いたら
やすりで仕上げます。

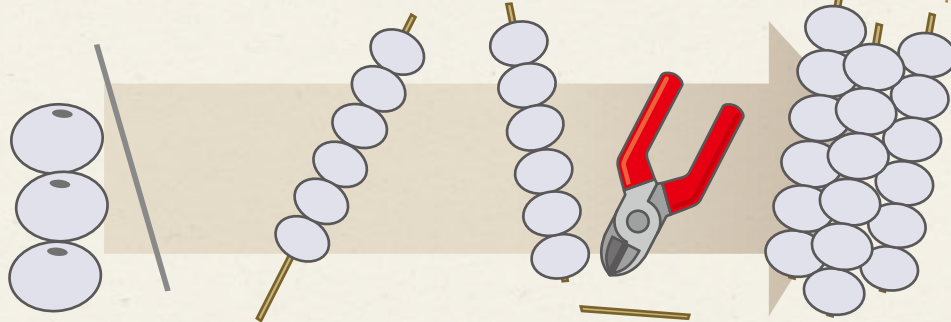
お華束の土台が
完成しました!

たいまつ食品さんの
ちびころもちです。

次に餅を加工します。
使用した小餅はスーパーで
市販されているものです。
今回は160グラムを3袋使用
しました。こちらも費用は
500円程度でした。



5 竹串に小餅を刺していきますが「つきたて」と違い硬いので餅にステンレスの串で前もって穴を開けます。次に「みたらし団子」の要領で餅を刺していきます。芯の高さに合わせて個数は調整してください。今回は6個を刺した串を三本と上部に飾る小餅を4個を使用。串は最後に上にのせる小餅を固定できるように上部を若干出しておきます。串の下部の長さは調整してペンチ等で切り落としておきます。



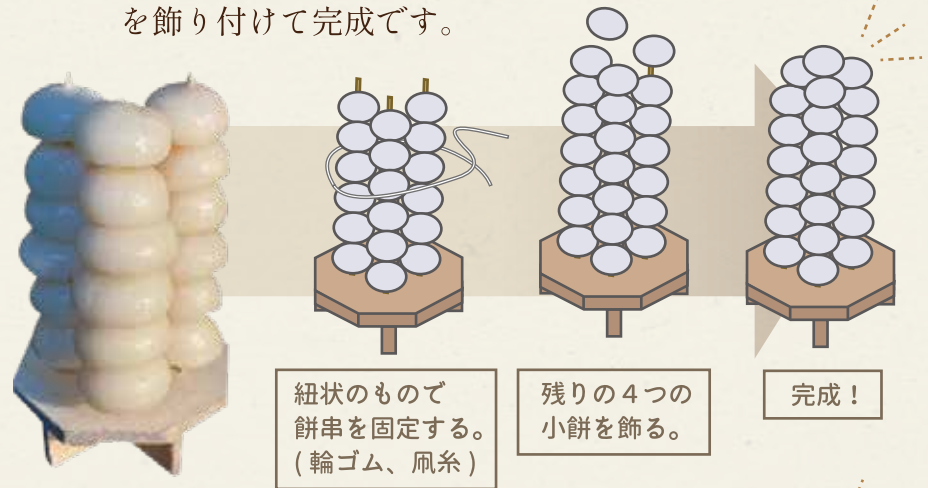
餅は固いので
ステンレス串で
あらかじめ穴を
開けておく。

団子状に6個餅を
串に刺したものを
3本作る。(上部を
若干出して刺す)

餅を刺した串の
下部分をペンチ
で切り落とす。

餅串3本が
完成
しました！

6 次に作成しておいた芯の部分に餅を飾っていきます。芯を中心に串に刺した小餅を立てていきます。今回は結束に輪ゴムを使用しましたが、凧糸のようなものが目立たずによいでしょう。最後に小餅を飾り付けて完成です。



紐状のもので
餅串を固定する。
(輪ゴム、凧糸)

残りの4つの
小餅を飾る。

完成！

7 \ お華束の完成です！ /
方立(ほうだて、和紙でできた花卉)
を周りにさして完成したお華束です。

左右に一对で須弥壇(御本尊が安置されている壇)の上に供えてください。

注意点としては、小餅が「つきたて」ではありませんのでお華束として長時間飾ることは難しいようです。表面が乾燥状態になりやすいので法要の前日につくって終わったらすぐに下ろしてください。

